

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年4月3日

事業所名 放課後等デイサービスくくろーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	55%	45%	・利用児童の障がいや利用日の状態あわせて随時適切な支援ができるように、小上がりのスペースを設けたり個別に支援できる個室やコーナーを設置しています。 ・車いすを使用している児童数が多い時は室内の不要な椅子やテーブルなどを随時別室に片付けるなどしてスペースを確保するようにしました。	現在までにスペースが不適切で問題が上がったことはありませんが、利用人数が多い日は児童同士の距離が近づくので、支援員が間に入って児童間の関係がスムーズにいくように配慮しています。
	2	職員の配置数は適切である	73%	27%	利用人数を事前に把握し、当日の支援職員を配置している。児童の障がい状態によっては支援する職員が不足しないように事前に調整して配置しています。	安全に支援できる職員の配置を基本としていますが、急な追加利用には保護者の意向を踏まえてできるだけ受け入れるようにしている。職員の人数が確保できず対応が困難な場合は安全確保のため受け入れていません。職員の急な病気などで休みの場合は、事業所同士で調整して対応しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	82%	18%	車いすでの利用ができるように玄関入口にスロープを設置しています。知的障がいと肢体不自由など障がいの違いなく受け入れているため、車いすから降りて休憩するための段差のあるフロアや電動ベッドを設置しています。トイレについては利用児童ができるだけすぐに利用できるように複数設置しました。車いす児童が利用しやすいように簡易ベッドや座位が安定できるよう改造しています。	今後も利用児童の状況によって配慮が必要な場合は随時改善を行っていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	64%	36%	月に1回会議を設け改善項目について意見を出し合い解決策を出し合っています。検討した結果については全職員が共有できるように各事業所ごとに記録を閲覧できるようにしています。	会議に参加できない職員には勤務時に事業所管理者に直接問題提起したり改善要求ができるように、日ごろから協力できる関係を作っていくような職場の雰囲気作りを心がけていきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		保護者向けアンケートを年1回実施し、支援内容や希望について具体的な意見を把握しています。支援内容について全職員が把握するため閲覧できるようにしています。	月1回支援会議を実施し、児童の支援内容や配慮点、保護者の意向などを共有していますが、参加できない職員もいるので、曜日や時間などの調整を行っていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	91%	9%	事業所の会報に掲載して、地域の公民館や関係施設に配布したり、ホームページで公開していつでも閲覧できるようにしています。	結果についてはホームページを見ることができない保護者にも開示していきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	64%	36%		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		新規採用の職員については新人研修を実施しています。事業所全体では共通の研修を年間数回実施しています。研修内容は職員からの希望も採用しています。また各事業所ごとに月1回の支援会議を実施して児童への支援方法や対応の仕方を共有しています。実際の支援場面では経験者が支援の仕方を具体的に伝えることで資質向上を図っています。	研修以外にも、現場での具体的な支援の仕方が習得できるように指導職員のさらなる資質向上を図っていきます。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		・個別支援計画を半年ごとに実施し、常に最新の発達支援ができるように計画を策定しています。 ・他事業所参加で担当者会議を実施し、保護者様、相談支援専門員と共に、さまざまな日頃の状況の共有の為、話し合いを半年に1回程で行っています。	今後も専門性を向上させ児童の発達支援を行っていきます。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	55%	45%	・保護者様から頂いているアセスメントをファイルし、いつでも本日利用者様の分はすぐ見れるようにし、変わった所などは支援ノートや口頭で伝えるようにしています。	現在使用中のアセスメントの情報は詳細で具体的ですが、障がいの状況や発達段階に沿って作成されたアセスメントのほうがより専門的で客観的な見方ができるので、標準化された評価表に改善を検討することも検討していきます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	73%	27%	各事業所ごとに利用児童の状況を踏まえ、季節、学校行事や地域との連携等関係者の情報を参考に立案しています。	各事業所の支援職員ができるだけ多く参加して立案できるように、支援会議を有効利用していきます。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	73%	27%	11と同様、利用児童の状況を基本としているので、具体的に実現できる内容のプログラムを考えています。	子どもの障がいの状況に合わせて作成していますが、内容については今後さらに適切なプログラムを作っていきます。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	64%	36%	子どもに合わせて学習課題を設定したり、戸外活動を中心に身体を動かすようにするなど、平日は短時間でも個別に充実できるような課題を設定しています。休日や長期休暇は小集団で楽しめるよう、イベントを計画したり、社会経験を豊かにするために公共交通機関を利用した外出や地域の行事への参加を行っています。	保護者のご希望によっては、学校の宿題への支援を依頼されることもあり、個別対応が必要なためイベントへの参加ができていくことがありました。保護者への理解を求めながら適切な対応をしていきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	91%	9%	子どもによっては学習、散歩などの個別活動のほか、おやつ、昼食の買い物、帰りの会の司会や帰りの準備などの生活課題を設定しています。	今後も子どもの障がいや状態に応じたきめ細やかな支援を行っていきます。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	82%	18%	当日の利用者の名前、人数、送迎、活動内容の確認をするようにしています。また直前の変更等の確認もできるようにしています。イベント時には事前に計画表を閲覧してもらい共有しています。	子どもに適切な支援ができるように、職員間で具体的な支援方法について話し合い、職員同士で助言しあえるようにしていきます。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	64%	36%	・支援後は記録を書き、意見を出しあっています。 ・反省点があれば全事業所で意見を発表するようにして、改善策などを検討できるようにしています。	当日不在の職員は記録を読むことで情報共有できるが、他の職員に十分に伝わらないことがあるので全職員がもれなく共有できるようにしていきます。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	82%	18%	支援後は必ず記録を取って、次回の支援時や個別評価の作成の際の情報として活用しています。	職員によっては児童の記録について記載の仕方等統一しにくい面もあるので、できるだけ正しい見方をして記録できるようにしていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%		半年ごとに定期的なモニタリング及び支援計画を見直し作成を行うことで、新たな支援計画を作成して課題の見直しを行っています。	児童の変化をできるだけ迅速に把握し、サービス計画へ反映させていきます。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	45%	55%	職員間の共通理解ができずおらず基本活動に沿った支援は十分ではないと考えています。	ガイドラインの周知が不十分のため勉強会研修などの機会を設定していきます。
20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	91%	9%	児童発達支援管理責任者及び実際に支援している常勤職員が参加しています。	今後も継続して参画し、会議の結果について職員で情報共有を行い、支援に活かしていきます。
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%		小中学校の支援学級に通学する児童の担任と随時情報交換を行い、体調の変化や心理的な問題への情報交換を実施しています。・学校からの下校時間の変更や毎月の下校時間のお知らせを定期的に行ったり、保護者と相互に連絡確認を行いトラブルがないように気をつけています。	できるだけ漏れがないように連絡調整を行っているが、保護者との行き違い等がありました。今後とも丁寧に確認しスムーズな情報共有を行っていきます。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	27%	73%	医療的ケアが必要な子どもは受け入れていませんが、医療配慮児については、発作の見守りや睡眠障がい、持病に伴う与薬等について、保護者と十分な連携をとっています。また定期的に保護者から薬の情報等の提供を受けて把握しています。	医療ケア児でなくても医療配慮児を受け入れていることを職員間で十分共有理解し、専門的知識を習得し資質向上を図っていきます。
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	55%	45%	児童発達支援事業所の引き継ぎ情報をまとめたファイルを保護者から提供してもらっています。基本的には保護者を介して情報交換を行っています。	契約後はサービス担当者会議等に参画してもらい情報の共有を行っていきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	82%	18%	学校の先生と保護者様と当事業所の管理者・サービス担当管理責任者で面談を行い、利用者様が実際に使われているヘルパーさんからの情報提供を含めての移行支援を行っています。	卒業後には積極的に障がい福祉サービス事業所へ出向きスムーズな移行支援が行われているか訪問して確認していきます。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	36%	64%	・リハビリ専門病院のOTIによる全体研修を受けました。 ・専門の機関が実施している基礎研修や障がいについての研修を年間数名の職員が受講している。	外部からの研修には積極的に参加して職員の専門性や資質向上を図っていきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	45%	55%	各事業所ごとに利用児童の状況を踏まえ、公民館の季節行事(夏祭り、もちつき、節分等)に参加したり、地域のボランティアの協力を得て障がいの垣根を越えた交流を実施しています。	地域の子どもたちとの関わりは、土曜や長期休暇に限られることが多いので、支援の時間や活動内容の調整を行うことで交流する機会を作っていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	36%	64%	案内があり時間があれば参加します。	支援時間の調整やスタッフの調整を行い、今後は積極的に参加していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	91%	9%	・いつも連絡帳で日頃の状況は細かく記入していき、送迎時のやり取りや電話連絡などで常に最新の情報交換を行っています。週末の様子やリハビリの状況などをできるだけ詳しく聞くようにしています。	今後も丁寧な連絡調整を行い共通理解を図っていきます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	27%	73%	保護者の心理や心情を理解して対応できる職員が少なく、保護者への十分な支援が行われなかったことがあり、信頼関係の重要性について職員間で話し合っています。	ペアレントトレーニングについての専門的な知識や内容について職員の知識が不足しているため、今後の研修課題として設定していきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		契約時に伝え、年間通して具体的な説明を丁寧に行っています。	保護者に十分に伝わるように今後も丁寧に説明していきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	91%	9%	保護者からのさまざまな悩みや要望には時間をかけて丁寧に傾聴することを基本に、家庭状況や兄弟児支援も含めて個々の状況に応じた助言を行っています。	利用者へのイベント参加等は充実していると考えるが、今後兄弟児の交流なども企画し保護者の子育て支援へつなげていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	18%	82%	父母の活動への支援は、学校行事(卒業式、バザー等)へ出向くことでの協力を行っています。	利用者の保護者会の実施はしていないが、保護者同士の情報交換ができるよう情報提供を行っています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		保護者からの要望や苦情は速やかに職員に伝達し、管理責任者が本部へ報告して協議し対応しています。	今後も丁寧な対応を心がけて実施していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		ホームページの公開やブログでの活動状況の報告を行っています。事業所の会報を年数回発行するほか、支援内容については各事業所の活動内容を毎月1回プリントして保護者に伝えています。	今後も継続して情報提供していきます。
	35	個人情報に十分注意している	100%		・基本的な研修を受け十分に意識して注意しています。 ・職員の服務規定にも記載し個人情報の流出は厳しく防止しているところです。 ・イベントや支援時の写真等の使用も専用のカメラを使いネット等から流出しないように注意しています。	流出しないように継続して注意していきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	91%	9%	・子どもについては視覚的な文字や手話等を使って児童の障がいにも配慮したわかりやすいコミュニケーションを行っています。 ・保護者とも生活環境に配慮しながら出来るだけ話す機会を作っています。	子どもに合わせたコミュニケーションツールを増やしていきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	91%	9%	年間数回各事業所でのイベントに地域のボランティアを招いて交流を行っています。	地域に開かれた事業所になるようさまざまな地位活動に参加していきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	91%	9%	各対応マニュアルを策定し、年間を通して計画的に実施しています。特に感染症マニュアルはインフルエンザ、ノロウイルス等の流行時には具体的な予防方法や体調管理、病院受診等についてのマニュアルプリントを配布して注意喚起を行っています。	事業所によっては防犯マニュアルが不十分なので具体的な策定を行っていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		年2回各事業所でマニュアルに基づいた災害時の避難訓練を実施している。終了後は報告書を作成し、反省や改善策について全職員で共有しています。また避難場所には日ごろから散歩などを通して児童にも周知してもらっています。	救出訓練については救命救急の研修を毎年行って職員のスキルアップを目指します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	55%	45%	各事業所ごとに折に触れて職員間で話題にして意識づけていくようにしています。	職員がわかりやすいマニュアルの策定を行っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	36%	64%	身体拘束については、道路への飛び出しなどによる生命の危険を回避する場合に限られると思われるが、職員間での話にとどまっているところがあり組織的な決定には至っていません。	全職員が共有できるよう研修を実施し共通理解を図ります。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	55%	45%	個別にアンケートを取り保護者より具体的な食物についての情報提供を受けています。特におやつや昼食提供の場合は注意が必要なので、職員が共有できるように事業所内に掲示して間違いがないように確認しています。	医師による直接の指示はないが、できるだけ新しい情報を得られるように保護者と綿密な連携をとっていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		各事業所内での擦り傷や持ち物の忘れもの、支援中の児童の様子から保護者の苦情など、対応に配慮が足りなかった事例はすべて当事者が記録し本部に報告しています。その後職員全員が共有できるようにプリントし各事業所ごとに閲覧するようにしています。重要な案件は支援会議等で再度確認しています。	今後もヒヤリハット事例を共有することで職員の意識向上を図り、ヒヤリハット事例を減らしていきます。